



かわらばん! プログラム ⑦



星が岡牧場で一緒に受けてみよう「ボランティアって何だろう?」講座

～知って、学んで、連携しよう～(石川県ボランティア出前講座・公開講座)

3月2日(土) 13時30分～15時30分
和気町にある障害者支援施設「星が岡牧場」
において、ボランティア活動をする側、ボ
ランティア活動を受け入れる施設側がとも
に、学びあいました。参加は18人でした。

月	火	水	木	金	+	日
				3/1	3/2	3/3
3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10

内容

大阪府立整肢学院の指導員、ボランティアコーディネーターであり、京都教育大学非常勤講師も務められている後藤光弘(ごとうみつひろ)氏を迎え、ボランティア活動に対する理解を深めることで、施設側の受け入れ時の配慮すべきことや、ボランティア活動者自身の注意すべきことを学びあいました。施設職員の研修の場と併せ、地域とのつながりの充実をめざし、市民の興味・関心のある方にも参加して頂けるよう公開講座としての開催でした。

また、石川県社会福祉協議会「ボランティア出前講座」、能美市社会福祉協議会「企業ボランティアセミナー」ともタイアップして行いました。

- ◆互いが気づいて感じ、本当に知る・・・ボランティアは心と身体で行うことで、「出会い」と「気づき」を得て、それまでの知っているつもりから、「本当に知る」ことができる。
- ◆自身の「存在」を確認する・・・目的を持って行動する行為から、さらに深めて、「私は〇〇(利用者・施設等)にとっての〇〇な存在になりたい。」と心に落とすことが継続の秘訣。
- ◆協力ではなく、「共力」する・・・「力」ばかりを合わせるのではなく、「一緒に・ともに」力を出し合っていくことがボランティア。でも「一緒に・ともに」行う為には知恵を出し合い工夫することが地域でできること。それが支えあいを考えることにつながる。

参加者の感想

- ・施設側としても、もっとボランティアに、どのような「存在」になってもらいたいのかを考えていけないといけないと思いました。
- ・活動するに当たって、受け入れ側の立場ばかりを考えてしまっていたが、コミュニケーションを持ってみようと思いました。
- ・気づく力、感じる力、気づいてもらう、感じてもらう、本当にそう思います。「共力」良い言葉ですね。
- ・イス取りゲームのような傍観者を作ってしまう地域はだめ。誰でも座れる地域や社会ができれば良いという言葉が印象に残りました。



障害者支援施設に初めて入られた方もいました。



自己紹介とジャンケンを使ったワークで、コミュニケーションをとることによって、互いの思いを知り合う大切さを確認しました。

